

<オンライン教学講座「報恩抄」⑥ 参考資料>

◎第2総東京最高幹部協議会でのスピーチ

妙法は、大宇宙の根源の法則である。何よりも大切な妙法を唱え、妙法を行じ、妙法のために戦う人の祈りは、まっすぐに大宇宙の根本の律動に合致していくのである。したがって祈りが叶わないわけがない。諸天善神も、仏菩薩も、必ず必ず護るのである。

(聖教新聞 2008 年 4 月 8 日付)

◎御書の世界〔上〕

深夜にきらめく満天の星明かりも、ひとたび、太陽が昇ればかき消されてしまう。それと同様に、末法の大法が赫々と昇れば、正法・像法時代の教えは消え失せる。

「此の大法のみ一閻浮提に流布す」(全 1489・新 2014) ——これが日蓮大聖人の御確信です。

そして、この一閻浮提流布を現実のものとしたのが創価学会です。今は、太陽の仏法が、まさに中天に昇ろうとしているのではないだろうか。世界中で、日蓮仏法の功德の陽光が燦々と降り注いでいる。世界のどこに行っても、日蓮仏法を実践している人がいる。「一閻浮提広宣流布」の大きなチャンスが来たのです。この時を逃してはならない。

(『池田大作全集』第 32 卷 380 ページ)

◎新版 法華経 方便品・自我偈講義

低い価値観への執着が強く、卑小なものを好み偉大なものを嫌う。かりそめのもの、偽物を好み本物を嫌う。末法とは、浅い思想・生き方が受け入れられ、深い生き方を軽蔑する時代です。

そんな顛倒した社会のなかで、目的地を失い放浪する人に、真の生き方を説き続けてきたのが学会員です。まさに一人一人が「大衆の唱導の首」(法華経 453 ページ)とあるとおりの、民衆のリーダーとして光を送り続けてきた。

(中略)

大変な場所で、誰もが「ごうじょうにはがみをして」(新 1475・全 1084) ——歯を食いしばって頑張った。「顛倒」ゆえの、いわれなき非難と、中傷の嵐にも耐えた。そして、勝った。はつらつとした皆さんの笑顔が、日本を大きく変えたのです。また、その同じ笑顔が、世界の各地にも広がりました。今や、地球上を題目が包む時代になりました。

(『新版 法華経 方便品・自我偈講義』183 ページ)